

はままつ

図

書

館

だ

よ

り

9月号

vol.223

令和7年8月29日
浜松市立図書館

特集「終戦から80年」

展示「太平洋戦争と人々の生活」と
郷土研究講座「浜松大空襲と米軍資料」について

伝馬町交差点から鍛冶町通りを写した写真です。正面の建物は松菱百貨店です。
(昭和20～21年)

特集

終戦から80年

今年は、太平洋戦争が終結してから80年の節目の年となります。中央図書館では、太平洋戦争に関する展示と講座を行いました。

展示「太平洋戦争と人々の生活」

戦時下の浜松市が初めて空襲の被害を受けたのは、昭和19年(1944)12月13日とされます。この日、米軍のB29が1機襲来し、焼夷弾約597発が投下されました。以降、浜松市は27回もの空襲と艦砲射撃により被災し、甚大な被害を受けることとなりました。とりわけ、昭和20年(1945)6月18日の空襲は、浜松大空襲と後に呼ばれるほど、大規模なものでした。中央図書館では、5月23日から8月27日までの間、浜松大空襲に係る資料を中心とした展示を行いました。



展示資料②

被災した浜松の写真



▲浜松大空襲で焦土と化した市街地を撮影した写真です。(昭和20年7月頃)



▲終戦後、多くの人々が広小路の青空市場に集まりました。(昭和21年頃)



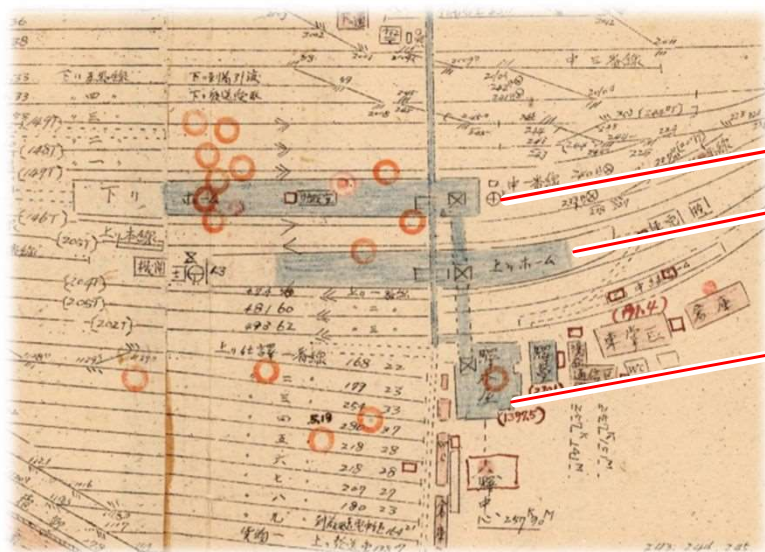
◀ 空襲などにより被災した市街地を撮影した写真です。この建物は松菱百貨店の南側です。(昭和20年頃)



▲龍禅寺町と楊子町間の馬込川にかかる楊子橋です。橋の側面には機銃射撃と思われる弾痕が現在も残されています。

郷土研究講座「浜松大空襲と米軍資料」

8月2日、中央図書館大会議室を会場として、浜松と周辺地域の空襲被害をテーマとした講座を開催しました。愛知大学名誉教授の阿部聖氏により、郷土資料と米軍資料の記録内容を比較しながら、当時の被害実態について詳しく解説が行われました。講座当日は、会場で41名、オンラインで13名の方が受講されました。多くの方にご参加いただきありがとうございました。



下りホーム

上りホーム

駅本屋

展示資料①

浜松駅構内線路略図(戦災図)
昭和21年10月



この資料は、上記二次元コードから浜松市文化遺産デジタルアーカイブでご覧いただけます。

太平洋戦争での空襲・艦砲射撃による浜松駅の被災状況を示した平面図です。紙面の都合上、上記画像は中心部分をトリミングしています。図の上が南、下が北となります。「駅本屋」が現在のバスターミナル付近となります。この図から上下線ホーム、駅本屋などが焼失し(塗りつぶした部分)、ホーム周辺には爆弾が集中的に投下(中抜き丸)されたことがわかります。また、当時の駅構内の細部も図からうかがえます。

郷土資料 案内

「米軍資料から見た浜松空襲」 阿部 聖／著・あるむ・2006年

太平洋戦争末期、浜松市はB29爆撃機や空母艦載機からの爆撃、戦艦等からの艦砲射撃で、死者3,000名以上、市街地が焦土となる被害を受けました。

浜松空襲については、「浜松市戦災史資料」全4巻において詳細に語られていますが、被災した日本側資料のみでまとめられています。

本書は、浜松に対する空襲や艦砲射撃とその効果についての資料を収めた米軍の戦略爆撃調査団資料などを基に、浜松がこれほどまでに空襲を受けることになる要因がまとめられており、浜松空襲を考える上で貴重な本です。



図書館からのお知らせ

図書館利用者カードの有効期限は5年間です！

有効期限の30日前からカードの更新手続きが可能です。
更新の際には、氏名・生年月日・住所の確認できる身分証
(マイナンバーカードなど)をお持ちになって、カウンターへ
お越しください。

詳しくは
図書館HP



はままつ図書館だより No.223 (2025年8月29日発行)

浜松市立中央図書館

浜松市中央区松城町214番地の21

☎ 053-456-0234 FAX 053-453-2324

✉ chuo@city.hamamatsu.shizuoka.jp

ホームページ <https://www.lib-city-hamamatsu.jp/>



図書館だより
バックナンバー



リボンのリコちゃん
図書館へ行く！